

是彼會員

滿洲国立建国大学と戦後、日中 国交正常化と善隣国際交流事業

村田嘉明
(會員)

2022年9月は日中国交
正常化50年です。日本の新聞・
テレビ局は毎年、8月15日前
後に「終戦特集」に記事、放
送番組を組みます。1945
年8月は日中戦争の終戦で今
年は77年目を迎えました。私は
1945年1月に満洲国新京
特別市（現在の中国吉林省長
春市）で出生し、今年年齢77

歳です。中国東北部が私の第
二の故郷です。

8月20日、大阪ABCテレ
ビ「テレメンタリー2022」
を見ました。この番組は、2年
前には大阪朝日放送報道局記
者の丘文奈さんが国際善隣協
会会員の故・村田治雄さん
（建大6期）取材をし放送さ
れました。番組の映像では19
72年9月の日中国交正常化
で田中角栄と周恩来が人民大
会堂で硬く握手した場面が印
象的でした。今回の放送では今
泉茂さん（建大6期）と中国
人建大生の在学中から終戦、
引揚後、日中国交正常化後の
交流を「朋友・友好の橋を架
けた青年たち」のタイトルで放
送されました。日中国交正常

化から8年後、1980年に
日本側建大訪中団が北京空港
で出迎えた中国人建大生側の
赤い横断幕「歓喜嶺会、熱烈
歓迎」が印象的でした。小林
金三さん（3期）が訪中し、
中国人の陳抗さんと再会、当
時、中国外交部にいた陳抗さ
んが1972年の日中国交正
常化後、札幌の中国領事館開
設に尽力した状況も写りました。
番組では建大での学生生活
「五族協和」の下に日・中・鮮・
蒙・露の学生の交流が当時の
寮生活・農作業が映像になっ
ています。番組では愛知県豊橋
市の愛知大学豊橋キャンパス内
にある「建大生の記念碑」に
善隣会員、2期生の故・市川
衛門さん（2015年に逝去）
の名も刻まれていました。私が
善隣に入会した十数年前は建
大生OBがたくさんおり協会内
で交流しましたが、今、善隣に
いる会員は数名です。風前の灯
火です。1972年9月、田
中角栄首相、大平正芳外相、
二階堂進官房長官が訪中した
50年前は、日本国内は「日中
友好」ムードが最高潮でしたが
現在、日中関係は最悪の状態
です。政府間外交は厳しい局
面ですが民間の善隣国際交流・
日中友好の活動を続けたいと思
います。

国際善隣協会は一般社団法人
として公益性のある公開講演
会・公開フォーラムを開催して
きましたが、2020年以降は
新型コロナウイルス感染環境下で対面



寧夏団善隣交流会 JST 修了式 (2019年11月)



寧夏団筑波大学医学部系
(2019年11月)

式の講演会の実施ができない状態です。ウィズコロナ下で対面式講演会の実施を望むところで、協会「定款」4条第2項に「善隣諸国の政治、経済、社会、文化及び歴史に関する講演会・シンポジウム・研究会の開催」と記述があり、協会は第3条の目的（中国及びその他の善隣諸国との相互理解を深め、親善関係の増進（中略）会員相互の研鑽、親睦を図る）を達成するため第4条の事業を行うと規定されています。第4条第4項では「善隣諸国における環境問題等への取り組みを支援する事業」が規定されています。私が10年以上所属する協会・常任委員会「国際交流委員会」では過去に中国内「寧夏回族自治区」「遼寧省葫蘆島」「黒竜江省富裕県」「北京市内」「西安市内」などの植林事業を実施し、現地にも行きました。今般、すでに実施済みの山西省太原市盆口郷提子頭村の2回目の植林申請を



湖北中医団北里大学（2020年1月）

外務省宛（日中友好会館経由）に提出しました。国際善隣協会の環境事業「植林」は協会定款に規定された主要事業と認識しています。世界的な地球温暖化で、空気中の二酸化炭素を減らすため「植林」の結果たす役割は大きいです。日中両国の善隣友好関係を持続し、民間草の根国際交流が望まれるところです。

◆文中1980年建大訪中団の記述で「歓喜嶺会、熱烈歓迎」歓喜嶺は建大のあった場所。文中、村田治雄さん（建大6期）は97歳で2022年8月に逝去。旧大同大街の坂を上りつめた場所「歓喜嶺」

と故・長野宏太郎氏（建大7期・国際善隣学院院长）の記述があります。

◆筆者は2014年5月、府中市美術館で開催の「官展にみる近代美術展」劉榮楓作135「望郷」を鑑賞。同時出展の136「満洲の收穫」は星野画廊蔵。「望郷」は国際善隣協会5階会議室に展示されています。

善隣会員の皆様に5階会議室の大型絵画（一〇〇号）「望郷」について説明します。

劉榮楓、1892年生まれ。日本に帰化し陸軍大学校、陸軍経理学校教授を務めた劉雨田の息子。独学で洋画を学び、文展や東京大正博覧会に出品した。第11回文展（1917年）の出品作は皇室の買い上げになった。大正初年は日本と旧関東州を行き来していたようだが遅くとも1937年頃には長春（旧新京）に定住していた。満洲国展には第1回、4回まで出品していたこ

とが確認できる。第2回展では美術委員を務め、無鑑査出品だった。大連や日本国内でしばしば個展を開催した。

〈参考文献〉

①五族協和の魁『満洲国立満洲建国大学』源元一郎著、2021年4月刊、鳥影社（建大の満洲の大地での農作業と劉榮楓作「望郷」が重なり、作者の母国、中国東北部の望郷の念が感ぜられる）。

②『官展にみる近代美術 東京・ソウル・台北・長春』（図録）。2014年5月、府中市美術館で開催され劉榮楓作「望郷」が展覧された。



劉榮楓作（100号）「望郷」

*絵画の作者プロフィールは『官展にみる近代美術』268頁から引用した。（2014年当時、善隣協会事務局との交渉にあたった志賀学芸員）